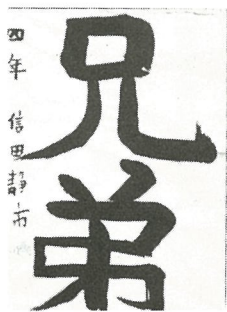
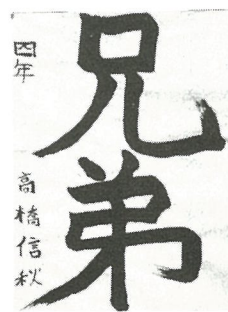


ぞう



1年  
こいけよしかず



のぼりぼう



1年  
すずきしょうこ

シリーズ

33

我が家の家庭教育

橋場 椎名 英夫

終戦後、満洲から引き上げて来たときは酷い栄養失調で翌年小学校へ入学したが、通うのが精一杯の状態でした。目くちや、鼻くちや、ヤニだらけと言われ、

長男は大学一年生、長女は中学三年生、親から脱皮しつつあることを感じつつ、我が家の家庭教育もバトンタッチの時が早く来ることを願っています。

しかし、子供と意見の衝突をすることがあります。『アニメは漫画と同じだ』と言えば、子供は『現実の姿に近づけた画で漫画とは違う』と言う。理屈では、ぶが悪くなつて来つつあります。叱るを親の特権と信じ、現実離れをした我をおしていることに、親が気づかずにいる場合もあることも事実です。叱った後で反省させられることはあるけれども、親が信念を持って対応することで、必ず子供も理解してくれると信じています。

子供心を傷つけられたのを忘れることが出来ません。その当時から四十年もたちますが、心の傷みを理解し、思いやれる人になろうと常々考えて来ましたが、我が家の家庭教育の考え方の根底はここにあります。

- ・ 家族が健康であること
- ・ 思いやりを忘れないこと
- ・ うそをつかないこと
- ・ 何事もやってみる積極性
- ・ 苦しいときの生き抜く強さ大切さ
- ・ 権利の主張は義務を果たしてから

消極的で批判ばかりする時、心の傷みを理解していない時、正直に対応していない時、ものすごい怒りをぶつけてしまう。『親が叱るのに何をそんなに遠慮する必要があるのか』という広告宣伝があるが、そのとおりだと思う。子供の心を傷つく叱り方さえしなければ、自信を持って叱ることにしています。